

北九州市立自然史・歴史博物館

へんてこモンスター ～海から始まったその軌跡～

開催期間：平成30年7月14日（土）～平成30年9月24日（月）



【企画展の内容・目的】

- 海棲無脊椎動物を中心に、奇妙な形態や生態を持つ現生・化石生物 500 点以上を展示し、生物の多様性と進化の歴史を実感してもらおう。そして人間をはじめ、多くの生物の活動はそうした海の豊かさに支えられて成り立っていることを学ぶ機会を与える。
- タッチプールや、被り物を身に着けた写真撮影、クイズラリー、スタンプラリー、海の生物の折紙などを行うことにより、海の生物に対する理解を深めるとともに、親近感や関心を高める。
- 地元北九州で採集された奇妙な生物も展示することにより、身近なところにも多様な海の生物やその化石が存在することを知らせてもらう。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成30年7月14日（土）～平成30年9月24日（月）
- 開催場所：北九州市立自然史・歴史博物館 ギャラリー館・オープンギャラリー
- 入場者数：119,141人



北九州市立自然史・歴史博物館 外観



企画展会場 入口



「奇妙な形の生きもの」のコーナー（上写真左）では、多様な海生生物の現生・化石標本を展示し、生物の多様性や進化に対して関心を深められるようにした。例えば、様々な形態のカニの仲間の標本を展示することにより、同じカニの仲間でも多様性の幅が非常に大きいことを知ったり、共に鋏角類に含まれるサソリの生体とウミサソリの化石の比較から生物の進化の歴史を感じたりできるようにした。

「奇妙な生態の生きもの」のコーナー（上写真右の奥側）では、様々な生態を持つ海生生物の展示から、生物が様々な能力を獲得することにより多様な環境に適応してきたことを理解できるようにした。フナクイムシや、フグなど、私たちの生活と密接に関わっている生物をできるだけ紹介するように工夫し、人間の活動が生物の特殊能力の影響を大きく受けていることを学べるようにした。

「深海生物」のコーナー（上写真右の手前側）では、深海環境や深海生物についての解説を行い、海洋の大部分を占める深海についての理解を深めるようにした。深海生物の調査道具や調査方法に関する解説も行い、深海研究への関心も高めるようにした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



「浮く殻を持つ生きもの」のコーナー（上写真左）では、“浮き”としての機能を持つコウイカやオウムガイ、アンモナイトなどの殻の紹介を行った。現生標本と化石標本の両方を展示することにより、“浮き”としての殻の仕組みと、これらの生物の長い進化の歴史を理解しやすくするとともに、海中で遊泳生活するうえで、浮力調節が重要であることを学べるようにした。

「巨大な生きもの」のコーナー（上写真右）では、巨大な二枚貝や、巨大な単細胞生物などの紹介を行った。比較のため、同じグループの普通サイズの標本も展示することによって、大きさが実感できるようにした。地元の北九州市産の巨大な二枚貝化石の解説を行い、さらにその化石の一つをハンズオン展示することにより、身近な海や自然への関心を高めるようにした。



「巨大なイカとタコ」のコーナー（上写真左）では、史上最大のイカとタコの下顎化石とともに、実物大の復元模型やペーパークラフトを展示し、大きさを実感できるようにした。また、マッコウクジラの胃内容物として北九州に流れ着いたダイオウイカの下顎や、このマッコウクジラの環椎、写真パネル等を展示して、身近な海への興味を高めるとともに、海の生態系への関心を深めるようにした。

「カンブリア紀の奇妙な生きもの」のコーナー（上写真右）では、チェンジャン生物群の実物化石標本などを多数展示した。これにより、ヒトが所属する脊索動物門を含め現存する多くの分類群がカンブリア紀の海で登場したことを学べるようにした。化石からでは生きていたときの姿をイメージすることが困難な生物については、カラフルな復元図を掲示したほか、有名なアノマロカリス類については実物大復元模型を展示することによって、カンブリア紀の海により関心を持てるように工夫した。さらに、関係のある現生標本も展示することによって、現在の生物との関係や長い進化の歴史について理解できるようにした。



「他の生きものを棲家とする生きもの」のコーナー（上写真左）では、現生標本と化石標本を用いて、寄生・共生・付着生物の紹介を行い、海生生物同士の複雑な関係とその長い歴史を学べるようにした。また共生関係にある生物の化石の研究手法の解説や、調査に使用する道具、処理途中の標本などを展示することにより、海生生物化石の研究についての理解を深めるとともに、研究への関心を高めるようにした。

「大昔からあまり姿を変えていない生きもの」のコーナー（上写真右）では、“生きた化石”として知られる生物を展示し、海生生物の進化の歴史について学べるようにした。また、北九州市内に暮らすカブトガニについて、標本だけでなく、生体も展示することにより、身近な海に対する親しみを深めるようにした。

【来館者の声】

- 巨大な生物が生きることのできていた海はまだまだ知らないことも多く、広く深いものだ実感できました。
- 深海生物など、本当にいろいろな環境に適応して長い間生きてきた生き物として人の生き方にも通ずる偉大さを感じました。子供が多く目の高さが低かったり、生きているものを見られるのが感動的で海を大切にしたいと思いました。
- ごみなどを減らして海の生き物を守らないといけないと思った。
- 海にはいろんな生き物がいると思った。
- 海をもっと大切にしたいなと思いました。
- 海には国境なく世界中繋がっていると改めて感じました。
- 子供に昔からこんないろんな生き物が海にいたことを教えることができた。
- 子供が海が大好きなので自分自身も学べた。もっと知りたいと家族で興味をもった。
- 海の歴史をもっと知りたいと思った。
- 海の水がキレイであることがとても大切なんだと思いました。
- 初めて見る生物がたくさんいて勉強になった。
- 化石を見ることで時代の流れを感じた。
- 何億年前という昔からいろんな見たこともない生物がいたんだと思った。

2. 関連事業の内容

■①タッチプールで海の生きものとふれあおう

【開催日時】平成30年7月20日(金)・7月27日(金)・8月3日(金)・8月10日(金)・8月17日(金)・8月24日(金)・8月31日(金)・9月2日(日)・9月9日(日)・9月16日(日)・9月23日(日)

【開催場所】北九州市立自然史・歴史博物館 ガイド館

【参加者数】9,099人

【実施内容・目的】

- 五放射相称の奇妙な体を持つイトマキヒトデやムラサキウニなど、生きた海岸生物に直接肌で触れて観察することにより、身近な海に様々な生物がいることを実感してもらう。
- 直接海の生物に触れることにより、海や海の生物に対して親近感や興味を持ってもらう。



開催場所の全景の様子



開場前の待ち列の様子



イトマキヒトデのプール、ムラサキウニとサザエのプール、カニ数種とヤドカリ数種のプールの3つのプールを設置し(上写真右;繁忙期はカニとヤドカリを分けて4つのプールを設置)、身近な海にいる生きた棘皮動物、軟体動物、節足動物に触れながら、それぞれの生物の肌触りを感じたり、動き方を観察したりできるようにした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



生物に触れる前には、触れるときの注意点等を説明し、生物に負担をかけないように触れる方法を学ぶようにした。これにより、身近な海にいる生物を大切にする気持ちを持ってもらえるようにした。



それぞれプールには、そのプールの中にある生物の名前の解説を掲示し、また、タッチプールの担当者から、生物の特徴や生態を解説することによって、それぞれの生物について詳しく学べるようにした。

【来館者の声】

- ヒトデが柔らかかった。
- 海をキレイにしようと思った。
- 海を大切にしたいとおもった。
- 海の生き物かわいいなって思った。
- 恐怖心が少し和らぎました。チャレンジしてよかったです。
- キレイな海を後世に残していきたいと思う。
- 子供が海の生物に触れたことでいろいろ感じるものがあったとおもう。
- この生き物たちを守るため、海を汚さないなど環境について子供たちに教えていかないといけないなと感じました。
- 小さな形でも一生懸命動いて生きているのを実感しました。地上に生きる私たちだけではなく、すべての命があってこそその私たちの生活を感じました。

■②へんてこモンスター展 ナイトギャラリー

【開催日時】平成30年8月4日（土）・8月25日（土）・9月15日（土）

【開催場所】北九州市立自然史・歴史博物館 特別展会場内

【参加者数】1,871人

【実施内容・目的】

- 照明を落とした夜の博物館内を、観覧者が懐中電灯で照らしながらまわり、普段とは違った雰囲気の中で標本を見学することによって、特別展で展示されている海の生物に関心を持ってもらう。
- 懐中電灯で照らした部分をじっくり見学することにより、細かな突起や、光が透ける構造、反射光の干渉によって生まれる構造色など、昼間の展示では気が付かなかった海生生物の持つ様々な特徴に気づいてもらう。



開催場所の全景の様子



開場前の待ち列の様子



暗い会場内を懐中電灯で照らしながら標本を見ていくことで、深海生物の展示コーナーでは、深海探査をしているような気分で一つ一つの標本をわくわくしながら観察し、関心を高められるようにした。



生体展示のコーナーでは、暗闇の中での生物の活動の様子について興味を持って観察できるようにした。



暗い中で、一つ一つの標本を懐中電灯で照らしながら観察することにより、コウモリダコの透明な部分や、軟体動物殻の構造色などが実感できるようにした。

【来館者の声】

- 陸よりも生物が巨大で驚いた。
- 深海生物は体験しているようでたのしかった。
- 海をキレイにしたいと思った。
- 深海生物は不思議でもっとたくさん知りたいとおもった。
- 自分の知らない海の生き物がこんなにたくさんいるんだとびっくりした。
- 海を大切にしようとおもった。ごみは捨てない。
- 海が好きになった。もっと知ってもっとすきになりたい。
- 面白かった。海でいっぱい遊びたい。
- 海の生き物に興味あり、今日のヘンテコも2度目。図鑑やネットで勉強している。海についてもっと勉強したいとおもった。

■③へんてこモンスター展ギャラリートーク

【開催日時】平成30年7月24日(火)・7月31日(火)・8月21日(火)・8月28日(火)・9月8日(土)

【開催場所】北九州市立自然史・歴史博物館 特別展会場内

【参加者数】190人

【実施内容・目的】

- 奇妙な海生生物について、特に不思議な点や最近の研究の話題、生物の進化史における意味合いなどを解説することにより、展示の見学だけでは分かりづらい面白さを知ってもらい、興味を深める。
- 海生生物化石の研究について、実体験に基づいて研究の経緯等を解説することにより、海生生物化石の研究に関心を持ってもらう。



ギャラリートークの様子



始めの概要説明の様子



古生物と現生標本との詳細な比較や、カンブリア紀の微小な化石の見所など、展示の見学だけでは分かりにくいポイントを詳しく解説し、個々の展示標本に対する理解を深められるようにした。



展示している化石標本の採集時の苦労話などを交えながら解説を行うことで、海生生物化石の研究に対する関心を高められるようにした。また、解説者が専門とする頭足類の、浮力調節の機能などについて詳しく解説することで、海中生活に適した体の仕組みに対する理解を深められるようにした。



展示標本の採集と研究を実際に行った解説者から説明を受けることで、白亜紀の海生生物や海生生物同士の関係について、理解と関心を深められるようにした。

【来館者の声】

- 生き物の始まりは海からだと思った。
- （海の生物の）いろいろな種類や違いを学んだ。
- （海に）いろんな生物がいると思った。
- 海の（生物の）多様性がすごいと思います。
- 太古から海にはいろいろな生き物がいたということ（を学んだ）。
- （海に）こんな大きい生物いることを知った。びっくりした。
- 先生の説明で自分でみるより勉強になりました。

■④海の奇妙な生きものになって写真を撮ろう

【開催日時】平成30年7月14日（土）～平成30年9月24日（月）

【開催場所】北九州市立自然史・歴史博物館 特別展会場内

【実施内容・目的】

- 奇妙な海生生物がたくさん描かれた海の絵を背景に、奇妙な海生生物の形の帽子（被り物）を着用して記念写真を撮ることにより、海生生物に対する親近感や関心を高める。
- 複数の被り物を使用して兄弟や友達と記念撮影することにより、海の生物に関する展示を見た記憶を思い出として持ち続けてもらう。



開催場所の全景の様子



撮影のための待ち列の様子



特別展で実際に展示されていた生物と一緒に写真を撮ることができる。また、被り物によって、自分も奇妙な海生生物になった気分で写真を撮ることができる。そのことにより、海生生物に対する親近感や関心を高めた。



会場の最後で展示されていた海生生物と記念写真を撮ることで、展示内容を思い出し、記憶が長く残るようにした。



家族や友達と記念写真を撮ることで、海生生物に関する特別展を見た思い出をずっと持ち続けてもらえるようにした。

【来館者の声】

- 自分が変な生き物になれて楽しかった。
- もっと本を読んで学びたくなりました。奇妙な生き物にびっくりしました。
- 海をきれいにして生物にとって住みやすい海にしたい。
- 海が生命をはぐくんできたこと。
- オウムガイのからが浮きの役目をしているのを知りました。
- これからも古代からの生物が保てる海であつたら良いと思います。
- うみを美しく守りたいと思った。
- 海にはたくさんの生き物がいるから子供に興味もってもらいたいと思うし生き物を大事にしてほしい。
- 海で生きている生物の多様性。
- 自分の知らない見えないところに大きな生物が暮らしていてそれらに食べられたり自分たちも魚や貝を食べたりとつながっていることを感じました。はるか昔からいる生物たちはこれからも進化をしながらその時代に合わせていることにも驚きました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■⑤へんてこモンスター展 スタンプラリー

【開催日時】平成30年7月14日（土）～平成30年9月24日（月）

【開催場所】北九州市立自然史・歴史博物館 特別展会場内

【参加者数】4,700人

【実施内容・目的】

- 奇妙な海生生物のスタンプを押しながら見学することにより、海生生物への親近感と関心を高める。また、スタンプの海生生物や関連する海生生物の展示を詳しく見学し、解説も注意深く読むことによって、それらの海生生物に対する理解や、それらが暮らす海に対する理解を深める。
- 奇妙な海生生物をスタンプにすることにより、展示への興味を高め、小さな子供にも楽しく見学できるようにする。



スタンプラリーの待ち列の様子



スタンプラリーシート表紙の様子



奇妙な海生生物のスタンプを会場内に設置するとともにスタンプを押すシートを配布し、スタンプを押しながら見学することで海生生物への親近感と関心を高められるようにした。



スタンプの海生生物や関連する海生生物の展示に対する関心を高め、それらの海生生物に対する知識や、それらが暮らす海に対する理解を深められるようにした。



スタンプシートにそれぞれの生物の解説を載せることにより、それらの生物について学ぶことができるようにするとともに、スタンプシートを持ち帰って自宅でも読み返すことができるようにした。

【来館者の声】

- 海にはよく行くのでこれからも大切にしないといけないと強く感じました。
- 思った以上に大きく深く、壮大なスケールがあること。今まで命を守りつなげてきた海を私たちも守っていく必要性。
- 子供たちにも海の大切さを伝えたい。
- 深海生物などまだまだ知らないものが多かった。とても勉強になった。
- 広い海にはたくさんの歴史があった。
- 海をきれいにしているろんな生物が生きていけるような環境を作らないといけないと思った。
- 昔の海の生き物と今の生き物の大きさの違いやヘンテコな生物が実際にいたんだと感動した
- 海にいろいろな生物がすんでいたことがわかりました。
- これから4歳と6歳の子供たちがいろいろと海について学ぶきっかけになったと思います。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■⑥へんてこモンスター展 クイズラリー

【開催日時】平成30年7月14日（土）～平成30年9月24日（月）

【開催場所】北九州市立自然史・歴史博物館 特別展会場内

【参加者数】4,700人

【実施内容・目的】

- クイズに答えながら見学することにより、絶滅した奇妙な海生生物に近縁な生物や、海生生物の特徴の意味などを知り、海生生物への理解と興味を深める。
- 奇妙な海生生物に関するクイズに答えながら会場を回ることにより、小さな子供もパネルの解説に関心を持って、楽しみながら見学できるようにする。



開催場所の全景の様子



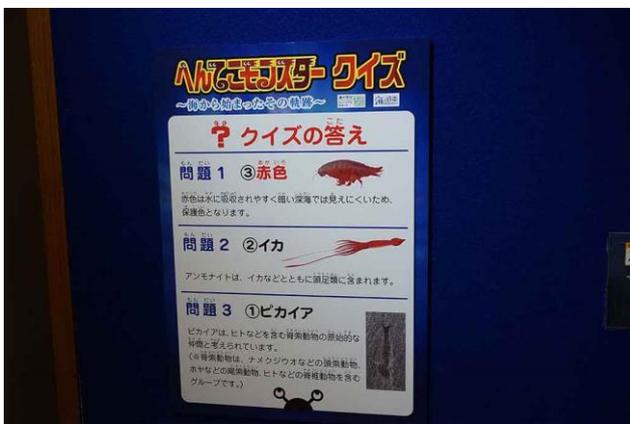
クイズパネルの様子



奇妙な海生生物に関するクイズパネルと解答用紙を準備して観覧者がクイズに答えながら楽しく会場内を回れるようにし、海生生物への理解と興味を深められるようにした。



クイズに答えるために解説パネルをじっくり読むように促し、海生生物に対する理解を深められるようにした（上写真2枚は、クイズ用紙を持ちながら、関係のある解説パネルを指差してじっくり見ている様子）。



会場の出口付近にはクイズの答えパネルを設置し、問題（問題1：深海生物の体の色について、問題2：アンモナイトに近縁な生物について、問題3：バージェス頁岩から産出するカンブリア紀の生物のうちヒトに近縁な生物について）の解答について学べるようにした。

【来館者の声】

- 広い海の中に知らない生き物や大きな生き物があることがわかりました。
- 海にはまだ生物、環境などわからないことがたくさんあり、勉強になりました。もっと興味をもついい機会になりました。
- いろいろな生き物が生まれて育つ海のすごさを感じました。
- （海は）命の実験場、発展を遂げていくところと感じた。
- 深海生物の不思議な生態について学びました
- （海に）生命の源を感じました。
- アンモナイトについてよくわかった。
- こんな大きなカニが日本海にもいるんだなおもった。
- 子供たちも理解しやすいクイズで学べてよかった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■⑦海の奇妙な生きものの折紙をつくろう

【開催日時】平成30年7月14日・7月21日・7月28日・8月4日・8月11日・8月18日・8月25日・9月1日・9月8日・9月15日・9月22日（いずれも土曜日）

【開催場所】北九州市立自然史・歴史博物館 こどもミュージアム

【参加者数】987人

【実施内容・目的】

- 特別展期間中に、常設展内でオオグソクムシの折紙を教える折紙教室を開くことによって、奇妙な海生生物への関心を高める。
- 自分で折った折紙を家に持ち帰ることにより、その思い出を持続させるとともに、思い出すきっかけを作る。



開催場所の全景の様子



オオグソクムシの折紙の様子



常設展の「こどもミュージアム」というコーナーで、博物館のボランティアが講師となって子供たちを対象に折紙教室を行い、オオグソクムシの折紙を自分で作ることによって海生生物に対する親近感と関心を高められるようにした。



自分で折ったオオグソクムシの折紙を家に持ち帰ることにより、博物館で海生生物を見た記憶を持続させ、また、その記憶を思い出すきっかけとなるようにした。



特別展会場が混雑していないときには、会場内でも折紙教室を行い、海生生物に対する関心を高められるようにした。

【来館者の声】

- 海をもっと大切にしようと思った。
- 海は本当に広くていろんな生き物がいること。
- 海の歴史を感じた。
- 幅広く市民が海を守り 子や孫に伝えてほしい。
- 折り紙が難しかったけど面白かった。
- 折り紙教室、子供も大人も楽しめてとてもよかったとおもいます。

【事業全体のまとめ】

サポートを受けることによって、他機関から多くの標本を借用することができたことに加え、ムラサキダコやコウモリダコ等の模型を作成することができ、より質の高い展示を行うことができた。それにより、アンケートの「海」について学びましたか？という問いに対して、90%以上の方が「とてもそう思う」あるいは「そう思う」と答えたほか、「まだまだ知らない海の生き物を知ることができて勉強になりました。」、「海にはいろいろな生き物がいることを学びました。」という意見が得られるなど、より効果的な学びを提供することができた。

また、サポートを受けることによって、関連事業としてタッチプールやクイズラリー、スタンプラリー、被り物による記念撮影等を実施することができた。それにより、アンケートの「海」に親しみを持ちましたか？という問いに対して、90%近い方が「とてもそう思う」あるいは「そう思う」と答えるとともに、意見として、「海の生物で生態系や人とのつながりを感じた」、「面白かった。海でいっぱい遊びたい。」などがあり、海をより身近に感じられる内容とすることができた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 海洋研究開発機構（JAMSTEC）	<ul style="list-style-type: none">・深海生物標本の借用・パネル用の深海生物写真の利用
2. 山根事務所	<ul style="list-style-type: none">・山根一真氏が「しんかい6500」の第1000回記念潜航に搭乗し採集され、その後、当館に寄贈いただいた深海生物標本の展示・山根一真氏が搭乗された「しんかい6500」の第1000回記念潜航で撮影された映像の上映
3. 福岡県教育委員会	<ul style="list-style-type: none">・県内の幼稚園、福岡市・北九州市の小・中学校への、特別展チラシや関連記事が載った印刷物の配布・来館学校団体への協力・後援

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 西日本新聞	夏休みお出かけ情報 6月29日
2. 毎日新聞	展示作業 7月11日
3. 朝日新聞	博物館、美術館情報 7月11日
4. RKB毎日放送	ニュース 7月13日
5. 毎日新聞	きょう開幕 7月14日
6. RKB毎日放送	ニュース 7月13日
7. FBS福岡放送	市政番組「あっぱれ北九州」 7月15日

8. cross fm	イブニングライン北九州 7月16日
9. MBCラジオ	たんぼぼおでかけ隊 7月20日
10. 毎日新聞	タッチプール開催 7月23日
11. NHK北九州放送局	ニュース 7月24日
12. TNC	ももち浜S特報ライブ 7月25日
13. 毎日新聞	ギャラリートーク開催 7月26日
14. 毎日新聞	来場5万人式典 8月10日
15. cross fm	プランニューサタデー 8月18日
16. 毎日新聞	展示品紹介連載1 8月21日
17. 毎日新聞	展示品紹介連載2 8月22日
18. 毎日新聞	展示品紹介連載3 8月23日
19. TNC	ももち浜ストア 8月23日
20. 毎日新聞	来場8万人式典 8月24日
21. 毎日新聞	展示品紹介連載4 8月24日
22. NHK北九州放送局	はっけんTV 8月24日
23. 毎日新聞	展示品紹介連載5 8月25日
24. 毎日新聞	来場10万人式典 9月12日
25. 毎日新聞	24日閉幕 9月22日

※TV・新聞・雑誌等、主なものを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。